

年 組 名前

2021年2月4日付飛騨版

柏木さん宅から助言を受けながら、雪の上に
コウゾの皮を広げる児童＝飛騨市河合町で



コウゾの皮「雪ざらし」

職人柏木さん宅 河合小児童が体験

飛騨市河合小学校の三、
四年生計十三人が三日、同
市河合町の和紙職人柏木一
枝さん宅で、和紙の原料と
なるコウゾの皮を雪にさら
す作業「雪ざらし」を体験

した。

雪ざらしは蒸して乾燥させたコウゾの樹皮を、雪の上に並べて一〜二週間ほど太陽光に当て、雪の水分と紫外線の働きで樹皮を漂白する作業。同町で八百年間作り続けられている伝統工芸品「山中和紙」作りで、白さを出すために重要な工程とされている。

児童らは柏木さんから、コウゾの皮が重ならないように並べるコツを聞いた後、体を目いっぱい使って、田んぼに積もった雪の上に皮を広げていった。三年生の幅野那音君（なね）は「きれいに日光を当てるために並べるのが大変だった。柏木さんのアドバイスを聞いてうまくできた」と話していた。（瀬田貴嗣）

問1 : 「雪ざらし」について具体的に説明している部分を抜き出し、はじめと終わりの3字ずつを書きましょう。

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|

問2 : なぜ「雪ざらし」をするのか、その理由を書きましょう。